

平成27年度

学校教育基本方針

京都市立醍醐西小学校

学校教育目標

共に認め高まり合い、自ら将来を切り拓く子どもの育成

～人を大切にする子・最後までやりぬく子・健康で明るい子～

学校経営方針

「人権」を基盤に据えた学校、学級集団づくりを行うことを大切にしたい。なぜなら、本校児童には、様々な課題がありまた抱えさせられている。

「子どもたちの人権を保障する」という意味では、多岐にわたる内容を想像することができであろうが、その中でも一番重要なのは「学力保障」である。

子どもたちに学力を保障することが、子どもたち自らが将来展望を持つことができ、またそれを達成することにつながるからである。

そこで課題を克服するために、様々な取組を行うことが大切である。そこで本校の児童の最大の課題である「学力向上」により焦点を絞って、以下の点に重きを置き今まで以上に取組の精選をし課題の克服を図りたいと考える。

指導の重点として

◎確かな学力

○基礎的、基本的な知識と技能の定着

- ・徹底した反復練習を含むスキルの学習の徹底
- ・その知識や技能を活用して問題解決ができる能力の育成
- ・教員の得意特性を生かした指導

○明確な基準を持った指導

- ・子どもの可能性を引き出す粘り強い指導
- ・到達目標を明確にした指導《指導しきる》

◎社会性の育成

○規律と調和のとれた集団づくり

- ・規範意識の育成
- ・体験・経験学習の充実
- ・集団づくりの中で自己有用感、自己肯定感の獲得

◎地域・家庭との連携

- 確かな実態把握のための家庭訪問の充実
 - ・保護者との信頼関係の構築
- 学校運営協議会の効果的な活用

目ざす子ども像

人を大切にする子

友だちの気持ちを考え、友だちの良さに気づける子

すすんで挨拶ができる子

おはようございます こんにちは さようなら ありがとう と自然にあいさつ
ができる子

最後までやりぬく子

目標を持ち、最後まであきらめずに頑張りとおす子

心も体も健康で明るい子

規則正しい生活リズムの中で、自立できる子

目ざす学校像

一人一人が認められ、大切にされる学校

安心感、所属感を持って過ごせる学校

最後まで何事にも粘り強く取り組み達成感がもてる学校

共に高まり合える集団の中で充実感がもてる学校

目ざす教職員像

常に人権を意識した教職員

子どものモデルとなれる教職員

子どもの実態を的確に把握し、個に応じた関わりができる教職員

子どもの将来展望を見つめ、一人一人に届く授業の創造ができる教職員

保護者、地域等との連携を深め、共に子どもを育む教職員

醍醐西小学校教育の充実に向けて

- 学校における授業のユニバーサルデザイン

「ないと困る」支援であり、どの子どもにも「あると便利」な指導方法

学級全体

「誰にもわかりやすく、安心して参加できる教育環境づくり」

学習指導・確かな学力が身につく授業づくり

生徒指導・・・児童の自己実現を図り，自己有用感を高める
学校全体

学校環境，教室環境づくり

わかりやすい授業づくり

達成感，充実感が味わえる教育活動の設定

安心感，所属感が持てる仲間づくり

環境の工夫

視覚的な支援

話し方や発問の工夫

ねらいや授業の見通しを持たせる

肯定的な評価

ルールの明確化

認め合う場の設定

○家庭の教育力向上

教育的刺激の発信

学校日より，学年日より，学級日より，週予定表等の更なる充実
家庭学習の定着

家庭学習の定着に向けた働きかけ

・家庭学習（宿題）の課題の与え方の工夫

家庭学習の課題の明確化

○モデルとしての教職員

身近な見本であるという自覚

日ごろの言動（服装，言葉遣い，礼儀等々）

社会を構成している一社会人であるという認識

○放課後まなび教室の充実

課題克服のためのスキル学習の徹底

漢字検定，計算検定に向けた学習

○帯の時間帯の充実